

第 章 調査の結果

1. 地方公共団体の属性

(1) 都道府県と政令指定都市

47 都道府県と 13 政令指定都市については、全ての団体から回答を得たが、本調査ではそれぞれを基本属性のひとつの類型として扱い、詳細の属性分析は行わない。

(2) 市区町村

市区町村（東京都 23 区を含む）については 2,041 団体から回答を得たが、人口規模や産業活動が大きく異なるため、以下の 6 属性指標別にクロス集計を行った。

- 人口規模：平成 15 年 3 月住民基本台帳人口
- 財政規模：平成 14 年度普通会計決算歳出額
- 農業活動：平成 13 年農業粗生産額
- 工業活動：平成 13 年工業製造品出荷額
- 商業活動：平成 13 年小売業商品販売額
- 自動車：平成 15 年 3 月乗用車保有台数

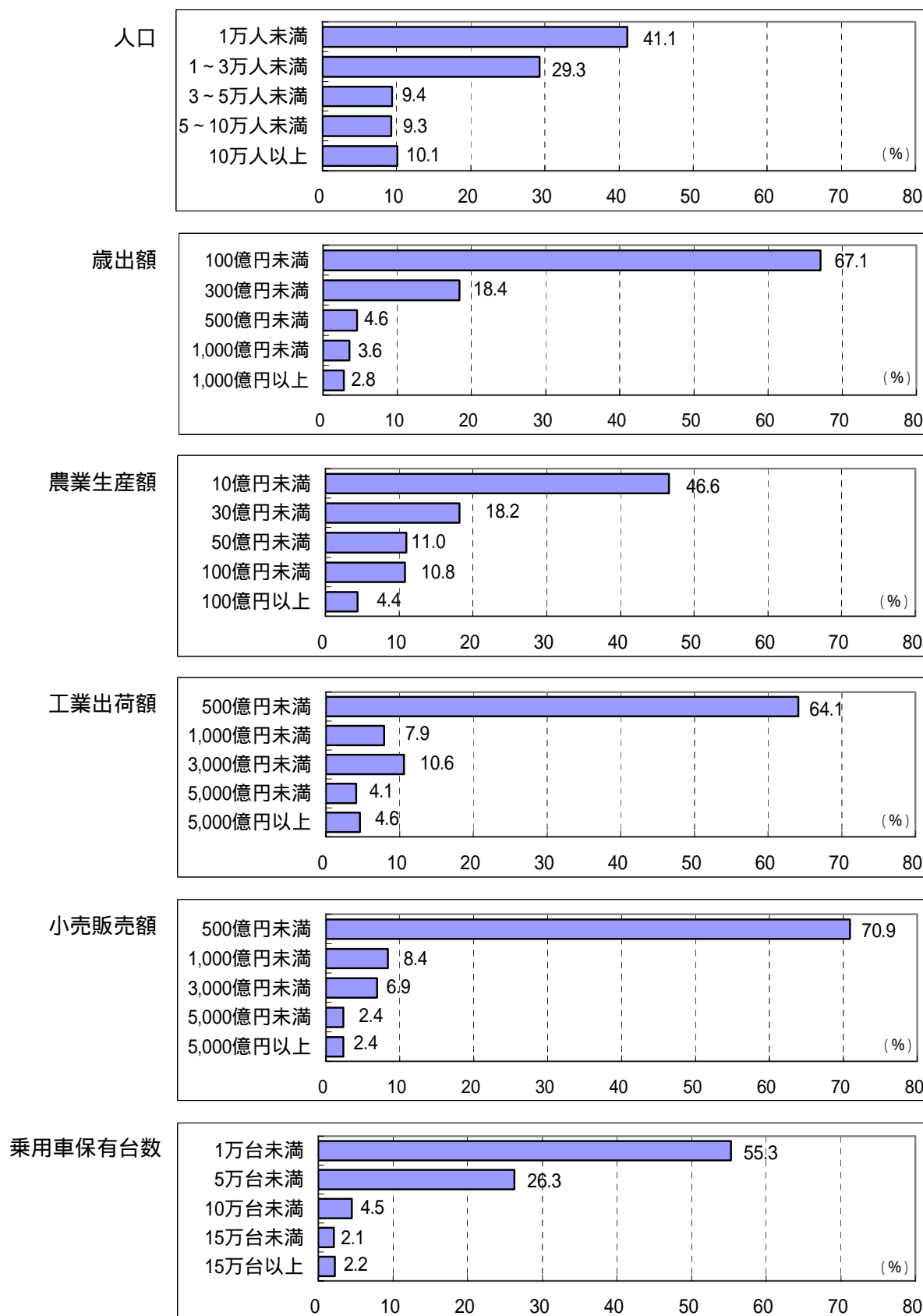
回答市区町村の属性分布

- 市区町村の 6 属性の分布をみると、いずれの属性についても、規模の最も小さい分類の割合が高く、規模が大きくなるにつれてその割合は次第に低くなる傾向にある（図表 3-1）。
- 『人口』については、「1 万人未満」（41.1%）が最も多く 4 割以上を占め、次いで「1~3 万人未満」（29.3%）が 3 割弱を占め、続いて「3~5 万人未満」（9.4%）、「5~10 万人未満」（9.3%）、「10 万人以上」（10.1%）となっている。
- 『歳出額』については、人口の規模別分布以上にこの傾向が強い。最も規模の小さい「100 億円未満」（67.1%）が 7 割弱を占め、次いで「100~300 億円未満」（18.4%）が 2 割弱となり、以下「300~500 億円未満」（4.6%）、「500~1,000 億円未満」（3.6%）、「1,000 億円以上」（2.8%）と急速にその割合が減少する。『農業生産額』『工業出荷額』『小売販売額』『乗用車保有台数』についても、おおむね同様の傾向にある。

回答市区町村の人口規模と他属性との関係

- 市区町村の属性を表す代表的かつ基本的指標は人口規模であるが、ここでは本調査で採用した他の属性指標との関係をみでみる。全体的には、人口規模が大きくなるにつれて、各属性指標においても、規模の大きい分類の割合が高くなる傾向がある（図表 3-2）。
- 人口規模が大きいほど、産業活動が活発で工業出荷額や小売販売額が大きく、歳出額や乗用車保有台数も大きくなる。特に、人口が 10 万人以上になると、いずれの属性指標においても、最も規模の大きい分類の割合が急増する。（ただし、農業生産額については、人口 3 万人以上になると生産額規模別の割合は大きく変化しない。）
- 以上のことから、以下の設問別分析における「市区町村の属性別の特徴」は、原則として、代表的指標である人口規模別に分析することとする。

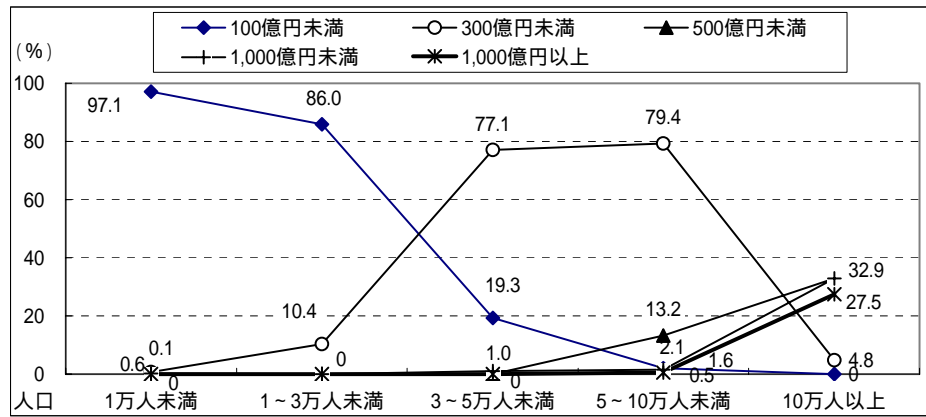
図表 3-1 回答市区町村の属性分布



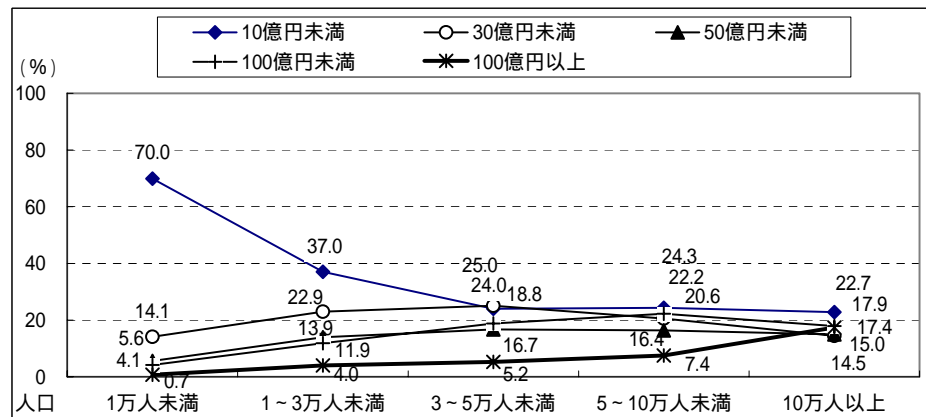
n = 2,041

図表 3-2 回答市区町村における人口規模と他属性の関係（その1）

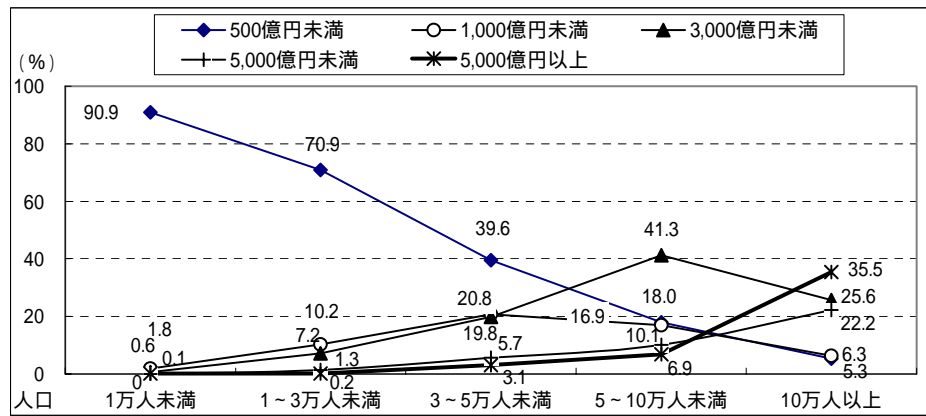
人口 - 歳出額



人口 - 農業生産額

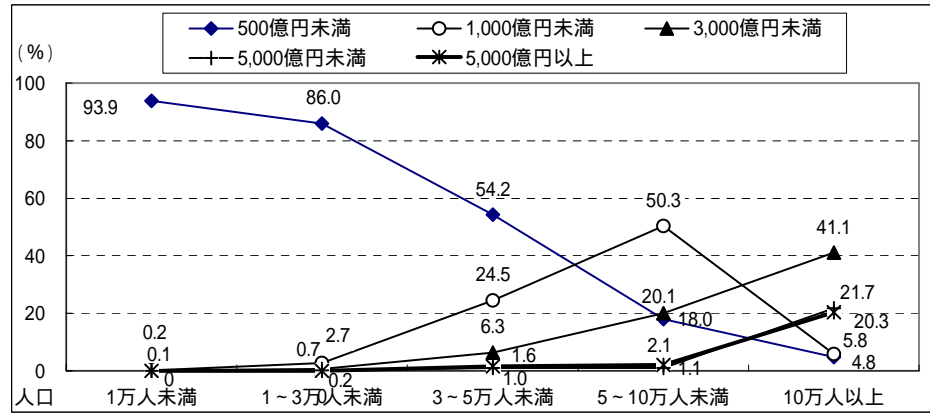


人口 - 工業出荷額

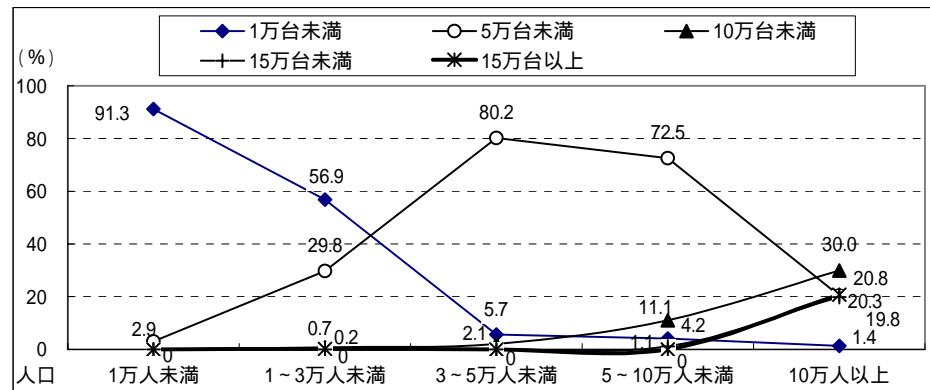


図表 3-2 回答市区町村における人口規模と他属性の関係（その2）

人口 - 小売販売額



人口 - 乗用車保有台数



n = 2,041